

FM English Basic Report

FM4 期生 C グループ

## 背景（授業前の知識）

本講義では **Academic writing** を学んだ。大学学部・大学院を通して体系的に当該内容を学ぶ機会は限られていること、また、所属する研究室によっても指導にばらつきがあることから、学士、修士を修了した本学学生でも学術論文の書き方に自信を持っている学生はほとんどいないと考える。また、この点において、学生個人ごとに当該内容に関して、知識や経験に大きなばらつきがあり、今後学術論文をまとめる上で大きな障壁となっていくことは想像に難くない。少なくとも我々のグループには、この分野における知識に自信を持っている者はおらず、本講義内容は今後の研究活動にとって不可欠な事項であることを強く認識していた。

## 到達目標

本講義における習得目標を以下のように定めた。

1. **Academic writing** の基本事項を確認・習得すること
2. **oral presentation** を通して各個人の研究内容やそれに関連する内容を専門分野外の学生にうまく伝える方法や改善点を学生相互の評価を通して学ぶこと
3. 他者の **presentation** の良かった点・改善点を発表することを通して、適切な「評価」の方法を習得すること

## 講義内容

講義は 2022 年 8 月 1 日から 8 月 4 日 の 4 日間、**ZOOM** および対面を組み合わせたハイブリッド形式でおこなわれた。「**Academic Writing Fifth Edition (Stephen Bailey)**」を参考書とし、**Mr. Kevin Knight** による解説と本資料内の設問に 3, 4 人のグループごとに取り組み、ディスカッションをおこなった。本参考書の内容に沿って、剽窃の定義や種類、単数形・複数形のルール、受動態・能動態の使い分け、**a** と **the** の使い分けなど、基本的な事項を解説していただくとともに、グループディスカッションを通してメンバー内で解決しなかった疑問についても、**Mr. Kevin** に解説していただいた。最終日には **Oral presentation** で各個人の研究内容もしくは各自の研究にとって重要な先行研究論文の紹介を 5 分程度で **Power Point** を用いて簡潔に聴衆に説明をした。その際、それまでの 3 日間で学んだ基本的な論文の構成を骨格として、**Introduction→Methods→Results→Conclusion→References** の流れに沿って、発表することに留意した。発表後には、ランダムに決められたペアの発表に対して、発表内容や資料、話し方（身振り手振りやスピード、語彙など）の良かった点と改善点を 1 分程度の「**evaluation**（評価）」として簡潔にまとめ、発表した。さらに、質疑応答を通して、聴衆全体の知識や理解を深めた。

## 結果

本講義を通して **Academic writing** の基本事項を学んだ。中でも **plagiarism** (盗作) については多くの設問に取り組み、時間をかけて学んだ。実際に論文など使われる方法として、**paraphrasing** (言い換え) や **summarizing** (要約), **quotation** (引用) が挙げられ、実際に例文を言い換え、要約することで適切に引用することを経験し、適切な使い分けや各手法の注意点を学んだ。また、言い換えや要約、引用した内容は、**reference** 項に確実に接続することで、読者が引用したソースに着実に辿ることができるように示すことが重要であることを確認した。

学術論文は主に、**Abstract, Introduction, Method, Results, discussion, conclusion, Reference** から構成されている。この流れに従って、最終日にスライド発表をおこなったが、5分という限られた時間内に、専門分野の異なる学生を対象に発表することを意識し、効率よく図や表を用いるだけでなく、専門用語の使用に関しても配慮を要した。さらに、ペアの学生に対する評価の際には、発表者の今後の発表技能の向上につながるような建設的な改善点のコメントをすることを意識した。他者の発表を評価するためには、単純に発表内容を聞くだけではなく、客観的に発表を観察する必要があるため、自分自身の発表の内省も同時におこなうことができた。

## 研究に活かせる点

**Mr. Kevin** の日本で豊富な経験に基づいて、日本人が間違えやすい単数・複数形の単語や **a, an, the** の使い分けなどをご教授いただけただのは貴重な機会であり、今後も活かされると考える。また、引用・盗作に関して、実際に論文を執筆する際に誤用することがないように、注意すべき具体例を学べたのは非常に役に立つ。発表や評価を通して自分自身の研究内容を、専門外の人を対象に、うまく伝えるために工夫する点を、学生間で評価しながら学べたことは、今後も活かされると考える。

## 影響を受けたこと

**Academic writing** の講義や参考書の問題を通して、スピーキングやリスニングだけでなく、文法の基本事項についても理解が足りていないと痛感した。**Toastmasters** という英語を勉強する場があることを教えていただいたのでそのような生の英語に触れる機会を積極的に利用し、継続的に学習していきたい。

## 本講義の限界点

基本的な内容から実践的な発表までを4日間でおこなったスケジュール上、時間的制約があり、今回学んだことを最大限活かしていくためには、今後の各自の継続的な学習に左右されると考えられる。また、学生の背景や経験が多様であり、留学経験などを通して、比較的英語のリスニング・リーディングに慣れている学生もいれば、これまで英

語に触れる機会が少なく、本講義中の **Mr. Kevin** の解説や指示がほとんどわからない学生もいた。この点を踏まえると、本講義の理解度に差が生じていることにも配慮を要する。

#### 結語

本講義を通して **Academic writing** の基礎を再確認し、発表や評価を通してアウトプットする機会を得られたのは貴重であった。参加者各自が多くの学びを得られ、到達目標を達成できたと考える。

#### 謝辞

4日間のハイブリット形式の講義を通して、参加学生各人が多くの学びを得られました。コロナ禍の難しい時期に講義を企画・開講していただきました、未来型医療卓越大学院プログラム推進室の皆様、先生方、そして、**Mr. Kevin Knight** に、深謝の意を表します。